京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金卅五錢●三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆十月十日
發行兼編輯人 印刷人 山下英爾
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三

論説　韓國の拓殖

東京高等商業學校教授　瀧本美夫

韓國に存する未開墾若くは荒蕪の可耕地は二十二三万町歩に達すべしと云ふ我日本に於ける米の作付段別は凡ふ二百八十五萬町歩なるが故に二十二三万町歩は其約十三分の一なり是れ豈に一大富源の放置せらるるものに非ずや近者新聞紙の傳ふる所に據れば本邦有力者中に韓國拓殖會社なるものを設けて韓國の開發と本邦の國民的發展とに資せんとする計畫ありと云ふ是れ實に時代の要求に應ずるものにして天下一人として賛同せざる者無き所なるべし而して同會社の事業は固より各種方面に亘るならんも土地の開拓は蓋し其最重要事業たるべきは想像するに難からざるなり

嘗て聞く所によれば韓國に本邦の農民を移植する爲に同國に縁故深き某銀行をして勸業銀行の如き業務を行はしめ金融の便を圖らんとする計畫ありしが如し然るに纔は沙汰止となりて大規模の拓殖會社を起さんとするに至れるは恐くは當局者及一般有力者が韓國の實情と拓殖事業の成否の關かる所多きとに顧みたる結果なるべく吾人は之を韓國拓殖計畫上の一大進歩として歡迎するに躊躇せざるなり何となれば未開墾地若くは荒蕪地を利用せんとするには治水、灌漑或は排水に關する稍大規模の設備を要すべく獨力之を行ふに堪ふる程の事業家中手を韓國の拓殖に延ばす者は左程多からざるべく又躬ら鋤鍬を手にせんとする中産以下の移住者に在らは金融の便備はるとも相互の間に規約を結び戮力して事を起すの勞甚だ多きか故に單に金融機關を設けたりとて必ずしも拓殖の進行を期すること能はず寧ろ豐富の資力を有する大會社をして直接に此れ等の設備を爲さしめ中産以下の徒の移住を容易ならしむるの遙かに勝るものあるべきを以てなり而して茲に研究すべき問題は一に拓殖會社が如何なる手段により未開墾又たは荒蕪の土地を得べきかの問題と次には如何にして此れ等の土地を中産以下の移住者に分配すべきかの問題との二なり拓殖會社が土地を得るに有償の場合もあるべく無償の場合もあるべしと雖も其活動の主要舞臺たる未開墾若くは荒蕪の土地は元來韓國に在ては無用の長物たるのみならず若し之を開拓する時は租税收入を増加し一般人民も亦種々の利益を享くべきを以て啻に無償にて之を會社に附與するのみならず尚若干の補助を與ふるも理に於て不可なる所以を見ず

次に拓殖會社が灌漑排水等の設備を成したる後其土地を利用するに如何なる手段を取るべきか即ち大規模の農業を直營ずべきか或は又小農をして耕作せしむべきかと云ふに韓國の地勢より見て前者は到底行ふべからず何となれば將に開墾せられんとする所の土地は決して一箇所に纒りて存在するに非ずして小地積つゝ各所に散在するものなればなり而して既に小農をして耕作せしむるを必要なりとせば拓殖會社が其土地を小分して適當の代價を以て之を邦人に賣渡すか又は之を小作に附するか何れかの一法を採用せざるべからずとは普通何人も直ちに思ひ付くべき所なり然れども予は此の二者を以て望ましき方法なりとは思爲せざるなり又學者は必ず云はん宜く獨逸の制度に例ふべしと然れとも予は此をも未だ望しき方法也とは思爲せざるなり（未完）

本年の金融及商況（一）

仁川　（商業會議所調査）

本年一月初旬は商況沈靜にして金融も亦緩漫なりしも舊歳末に近くに隨ひ米穀の出廻り頗る盛況を呈し金融も亦漸く繁忙の色を表はし來り二月に入り上旬は舊季末にして金融稍繁忙を告げしも舊正月に入りては小康を持續し諸雜貨の賣行捗々しからず金融緩漫を告げしが三月となりては大火災の爲め一般人氣引き立たず小取引は幾分打擊を蒙り金融は依然緩漫の狀態を持續したりしが中旬に入り解氷と同時に多少の荷動きあり下旬に入りても米豆の出廻はり輸入品の入津等俄に增加したるが爲め金融は稍や繁忙に向ひ四月に入り中旬より下旬にかけ大連に向け米穀の輸出　開けし爲め市況は活氣を呈したるも諸雜貨の賣行鈍く火災後復舊工事も亦計畫中に屬して資金の需用少く金融は閑散にして金利は二錢七厘より三錢一厘にて前月に大差なかりき四月となりては前月大火の後を受け一般取引上多少の變調を來したるにもあらざりしも其後の經過比較的好良にして惡影響を認めず火災地跡の新築日增盛にして又京城龍山其他各方面の土木建築工事及び之に要する建築材料の輸入を主とし韓人側の商況も稍や順調に向ひたるが爲め一般資金の需要頓に增加し加之米穀市場に於ける資金の需要は三銀行定期受渡米は其高云ふに足らざりしも客月來停滯せる商品在庫品に對する貸出金並に在邦若くは大連方面に對する輸出米の荷爲替資金は其額前月に比して多少の增加を示せり五月中は米穀市場に於ける新規貸出は甚だ僅少にして四月限も定期受渡米は千五百石なりしも多くは振出期定に止まり回米に對する新規貸出は前月に比し減少し又在米に對する貸出高は大連並に日本內地向白米及び大豆の輸出荷爲替資金となりて減少一方に傾きたるも夏季商品並に建築材料の入津盛にして之等に對する資金の供給は相應の高に止りたり六月中は米穀市場に於ける●新規貸出は前月に比し著しく增加するに至れり五月限り期米受渡は皆無なりしと雖せ入津米に對しては前半月中可なりの庫入貸出あり後半月に於ては輸出稍や振ひ荷爲替に於て四拾五万壹千餘圓定期に於て拾五万貳千余圓割引に於て八拾萬六千餘圓に達し在米に對しては漸次庫入を減少するに至れり以上總額に於て前月に比して二拾七万四千圓餘の增進を示せり（未完）

内外煙草製造集散商況

（財政顧問部調査）

●成川　成川邑に目下二戸の刻製造所あり何れも舊來の押切二臺つゝを有しあり内一戸は一日平均七十斤位を刻み其他の一戸は一日平均五十斤位を刻むと云ふ然れども何れも一駄位に纒りたる後平壤に持參し一卷烟草小賣店に開くに先月頃よりは本月は少しく賣行良なりと

●海州　海州城内に於て機械を用ゐて刻煙草を製造する者あるも其額至て僅少にして京府民の需用に應ずるを得ず依て刻煙草は京城方面より移入せらる韓人は一般に全葉喫煙し來客又は上流社會は多くは刻煙草を喫用す日本刻煙草はハキアヤメ等あるも只日本居留民の喫用に供するのみ當地方に於て專ら喫用する紙巻煙草は主として日本官煙朝日とし上海村井兄弟商會製ヒーローと之れに次ぎリリー等之に次ぐ

●義州　內國葉煙草の集散時は主として春季にして目下多少平壤方面より內國煙草の移入せらるゝ外集散を見ず近來韓人間に再び日本卷煙草喫用せらるゝもの稍や其數を增し賣行き漸次增加の模樣なり

●寧邊　一般韓民は從來全葉烟草を用ゐ居りしが近頃刻巻烟草を用ふるものあり當地附近は烟草を培養するも自家用に過ぎざるを以て商品として全葉貨は成川德川方面より巻莨は平壤、安州より移入し來れり

●安州　地方產の烟草は手製にて刻烟草となし之を小賣になす迄にして微々たるものなり日本製巻烟草は重に朝日、敷島にして居留日本人の喫用に過ぎず

●開城　一般製造狀況は前月に比し著しき變りなきも前年產原料葉の拂底及價格の騰貴等にして前月に比し少しく製造量を減したるも製品の賣行は良好なり紙巻烟草の輸入に於ては前月に變はりなきも葉烟草の取引は極めて少量なり

●江陵　三陟郡に於ける葉烟草及江陵、襄陽郡に於ける刻烟草は嶺西各郡に於ける生產額の不足を補ふものなるも未だ其精調を得ず外國烟草としては日本官營の朝日、リリー等各市日に出づるを見るのみ其他小朝日、ヒーローの出品をも見る事あり此等外國烟草は重に海路韓國舟に依り元山より移入せらるゝもの如し

京城博覽會彙報

▲閉會式　愈々來る十五日閉會を告ぐる由なるが過日の褒賞授與式か一面閉會式とも見るべきものなるに付閉會式は別に擧行せられず只同日午後五時閉館と同時に煙花數十發を打揚げ目出度き閉會の合圖をなすと云ふ

▲貧民入場　豫て記したる如く博覽會にては來る十六日特に貧民の入場を許す由なるが其入場切符は漢城府尹より夫れ〳〵既に配布を了へたりと云ふ

▲殘務整理　は十六日より着手し出來得る限り速かに結了する意氣込なる由なれば出品人も十六日以後には敏速に出品物を引取る樣心掛けられたしとなり

▲賣約品　賣約品を受取りたきものは手附金領收書に殘金を添へ十六日より速かに現品受取に出懸けられなば事務所は敏活に引渡をなす準備整ひ居れる由尤も十七日は勞れ休めの爲め一日丈け事務員一同休業する由なり

文苑

佳羅丹之幾

玉井南軒

戀
玉鉾の道はかはれどをしなべて戀ゆくならぬ人なかるべし

言志
咲きもあへずかつ散る花に心せよいつを盛りと定めなき人

鳥
宵にしるき梢の枝折れてねぐらに迷ふ夕がらす哉

新報俳壇

冬雜詠　牛人

町社神も留守なる落葉かな
庭にちる櫻紅葉や神の留守
禰宜老てほうけし顔や神の留守
巫女か戀神のお留守を踢治哉
奈良の鹿時雨て神のお留守也
別の座は七福神や神集ひ
曉の冷たき雨や神送
新しき繪馬四五枚や神迎

小説　紘のみだれ（三）

永井櫻園



『縫ちやんお前さん奈何爲たの、大變早いぢや無いかね、私先刻起きてお手水使つたばかりなんだよ。』と、呆れたやうに云つて、お縫の顏を笑顏に迎へたのは、竹本清糸と云ふ義太夫語で、モウ四十前後で、色艶の宜い、まだ何處やらに殘んの色香を仄見かして、義太夫語のやうな奴羅聲でもなく、辭は些と粗略だが、何どなくハキ〳〵した女で、女義太夫界では五本の指の一二に計へられた所謂れた師匠樣である、家は赤坂田町の七丁目の路次中で二疊の玄關を入れて三室きりの家ではあるが、相應の收入がある故か、室內の道具萬端まで、物質の良いものではないが、何から何まで小薩張と整ふて居る。

『は、お師匠さんに折入つてお願ひ致たい事がありまして、それで什麼に早く上りましたの』と、お縫はまだ上らうともせず庭に立つて居る。

『まあお上りよ、今朝大層寒いぢやないか那樣所に立たないで……』

云はれてお縫は何時も稽古して貰ふ六疊の室に上つたが、清糸がまだ御飯前だと云ふので、直に談話も爲かねるので、

『お師匠さん、御飯の御手傳致ませうか。』と、氣を利かせば、

『モウ食るばかりになつてるから、手傳なんか宜いけども、其代り食べて了つてから話は緩り聞くから暫く待つてゝお下れ！』

『本當に早くから上つてお邪魔しますのね、どうぞ御緩り召上つて下さい。』

『おや、火が澤山起つてるから、火鉢に取つて暖つてゝ下さい。』

『は、有難う……』

と、何しろ手水鉢の水が鏡のやうに氷て居るほどの朝であるから、お縫は遠慮なく火鉢に火を分けて、赤くなつた手の先を温めるのである。清糸は其間に、燈明を上げた神棚の前で、禮拜を濟して、直と朝餉の膳に向つた、そして、暫くすると食事を了へて、楊枝を使がらお縫の擁して居る火鉢の傍に座つた。

『何か急な用事なのか』と、始てお縫の顏を眺めたが、其返辭も待たないで、

『おやッお前さん大層眼が腫れてるぢやないか、奈何したのか』

と、不審相に問ひかけた。お縫は十六の少女としては、貧家に育つただけ、それだけ比較的世慣れて居るけれど。若も上流社會の娘なれば、姫樣々々と乳母に侍かれる年齡であるゆゑ、平常から親とも師匠とも恃むで居る、同情に富むだ清糸から、奈何したかと問ねられては、何とはなく悲しさが胸一ぱいに溢れて、思はず涙がホロ〳〵と零れた。

清糸は急き込んで、

『エヽ奈何したのか、家で怒られでもしたのか、それとも誰かれ友達とでも喧嘩したのか。』

と、疊掛けて聞く、お縫は涙を袖に拭きながら、

『いゝゑ、叱られもせず、喧嘩も爲ないんですけれど、種々悲しい事があるもんですから、それでツイ……』

『甚麽事か知らんけれど、私で力になれる事なら能るだけの力は添へるから、まあ話して御覽よ。』

京報新城

暴民を制撫するの計あり

韓南北の暴民等は何を憤りて叛亂し何を怨むで皇軍に抗せんとする乎、只だ憂ふ暴民變じて亂民となり亂民變じて賊類に化しつゝある此時に於て克く制撫するの計あり果して之を行ふの勇氣あるや否や。制撫の計とは何ぞや、韓皇帝親ら十三道を巡幸せられ、親ら宣諭解散せしめらるゝことなり、寒風漸く凛烈、百姓始めて農事を終らんとす巡幸の秋は今なり。

教養無き風習

殖民地に於ける風習を觀るべし、何ぞ雜然たるの甚しき、是れ教養無きが爲めなり、現今漢城風習も亦相均しきの感無くんばあらず。

遷宮

傳説の如く韓皇帝には昌徳宮に遷宮あらせられたり、次て太皇帝にも安洞離宮に退隱せらるべしと、是れにて宮中肅清の根本問題落着したるが如し。居は志を移すと申せり、希くは韓皇には維新中興の時と思召されて夙夜治平の仁政を施られんことを、又太皇帝には聖壽無窮有らゆる俗事と世務を忘れさせられて專ら皇室の和平を謀られんことを祈り奉る次第なり

東京電報

外資輸入協議

（十一月十二日發）

林外相は本日佛國大使、大藏大臣を始め澁澤榮一、莊田平五郎其の他の實業家を招き

外資輸入の件に付き協議

せり

韓皇の御遷宮

韓皇帝には豫定の如く昨日午後一時三十分大漢門御出門東大門内昌徳宮内大造殿に御遷宮あらせられたり今其御行列を拜觀するに先づ騎兵一小隊次に[illegible]警視總監[illegible]乘馬次に騎兵[illegible]次に日本式宮及び韓國騎馬[illegible]次ぎに騎兵日本騎兵一小隊次に李花章旗次きは皇帝の御[illegible]皇帝にはカーキ色の軍服を召させられ皇居前にて[illegible]女官陪乘せられたり、次ぎに小松宮内次官、高義式謀長同乘の馬車、次に侍從武官、近衞將校侍從太僕司長等乘馬にて供奉し次は女官三名同乘の馬車、次に永宣君李址鎔氏及び夫人の馬車、次に嚴妃[illegible]尹澤榮氏及び夫人の馬車、次に典醫、皇后大夫補之に從ひ次に騎兵一小隊次に李總理の馬車次に騎兵、次に宋農商工部大臣の馬車、近衞將校、皇太子は[illegible]陪乘し馬車にて續かせ玉ふ次に近衞騎兵隊及び市川憲兵大尉外憲兵六騎警衛し南道通りを東に取り東大門通に出でられ同通を東に鐘路より敦化門前に折れ同門より昌徳宮に御安着あり大造殿に入らせられたるは同二時三十分なりし當日大漢門前には韓國勅奏任官何れも禮服にて御送申上げたるか韓皇及び皇太子には一々擧手を施し御答へありたり沿路は拜觀の人々堵をなしたるも警戒嚴なりし爲め些の困難もなかりし尚ほ皇后を拜し參らするに年まだ十三四歳にて色白く王冠を戴かさせられ御同列にてあらせられしは仲々に氣高く見へさせられたり

韓國先帝の出御

韓國太皇帝は明十五日午前十時惇徳殿を出で太廟に展謁し午後三時に昌徳宮に臨み現皇帝と面接し同四時に歸宮の筈

伊藤統監の參宮

韓國現皇帝昨日昌徳に移轉につき伊藤統監は御機嫌伺の爲め同日午後四時參宮せり

太皇帝の涕泣

皇帝御移宮に付ては太皇帝にありては初めより御不興にあらせらるゝことなるが今回いよいよ御移宮のことに決定せるに就ては一方ならず落膽遊され兩三日來近侍を御招きに相成り何とかして移宮延期のことも出來さるやとの御意あり遂に某侍從をして統監邸を訪はしめ皇太子の日本遊學もすでに間もなきことなれば何卒夫まで移宮の事を延期したしとの旨を通じ來れる由なるも熟議の後一たん決定したることなればとて否定されたるより太皇帝にありては日々御涕泣遊ばさるゝ由漏れ承る

燒打說の起原

一昨夜昌徳宮及び統監邸燒打の風說ありしにより警務顧問部にては夜間俄かに巡査を繰り出して徹夜警戒を加へたるが遂に何事の起るべくもあらざりし由なるが今其風說の起原なりといふを聞くに今回の御移宮に對し太皇帝は一方ならず御歎息遊はさるゝより嚴妃はいたく御氣の毒に御思召され御近侍從に計られたるに此事早くも一部の策謀者間に漏れ暴徒の爲にする所あらんがしく遺憾の事と或人[illegible]

●李總理[illegible] 李完用氏は李龍[illegible]一進會に入れ在りたりと云ふ

廣州方面の賊

十一月[illegible]日午後銃器携帶せる暴徒四名廣州郡[illegible]朴世煥の家に來り日貨金[illegible]圓を强奪し去る[illegible]暴徒五名外搭洞住民[illegible]郡岱洞安鍾葉の家に至り[illegible]更に可洞枝一進會員任準植[illegible]しが任準植は翌日午[illegible]

九日午前廣州郡[illegible]面（石村分派所西北方約一里半）へ約廿名の暴徒（内三名洋銃携帶他は[illegible]）來り同村姜明午より木綿三[illegible]を强奪し去る首魁は住所不明金某と稱すといふ

●義兵の名稱禁止　從來暴徒の事をば義兵と呼ぶは普通の事なりしが今回其筋にては某新聞に向て自今紙上に於て右の名稱を用ゆべからずと注意したりと云ふ

各地の暴徒

▲麻田（京畿）　多數の暴徒は本部より近各部に跨り侮るべからさる勢力を有し居れる狀況なるを以て憲兵分遣隊は一時汝山に引上げたり因に十三日の二三新聞に開城通信中麻田の憲兵分遣所員鏖殺せられたりとするは全く虛報なり

▲長湍（京畿）　八日黑若くはカーサ色の服を着し新式銃を携帶する一千餘名の暴徒西道面上中里に入り九日午後九時既に邑外一里に迫り頻々として密偵を邑内に放ち同六時其の一部は邑外の山頂に顯れたり郵便取扱所にては斯くと見るより官品を鐵道驛に搬出し所員は貴重品を携へ開城に避難せり

▲信川（黄海）　本部長壽に籠れたる暴徒は齊銃の率うる一團なり六日邑東半里の高地に於て我偵察隊と開戰せるは其の一部にして百四十餘名なり

▲安岳（黄海）　五日午後八時頃暴徒の密偵と覺しき者二十八名邑内に入りしを我警察官の手にて逮捕せり暴徒は九日山中に根據を占め居るものゝ如し

▲孟山（平南）　本道に起りたる暴徒の策源地にして暴徒は主民を煽動し日人一人を捕へたるものには百圓を贈與すべしと稱し其の他橫暴至らざるなきより同地郵遞所主事には避難せり

▲价川（平南）　郡内々南及び外東兩面には暴徒の密偵風の者入込良民を强迫し金品を掠奪しつゝあり

▲伊川（江原）　四日同地郵便取扱所引上の際服務中なりし濱崎力藏氏は八日まで未だ消息を傳へず或は賊の爲めに殺害せられしには非ざるかといへり

▲鐵原（江原）　七日東邊面長興山里に暴徒八十餘名來集せりとの情報ありて我隊偵察に向ひしに賊は已に逃走後なりしと

▲淮陽（江原）　十日午後五時部北面金谷里に少數、嵐谷面桐洞里に多數の暴徒侵入せりとの報あり

▲燕岐（安南）　七日午前四時暴徒四十名南面玉洞に來襲せしも終に公州郡唐洞方面に向つて退却せり

▲龍潭（全北）　郡内大防里の山中に暴徒根據を占め居り動もすれば邑内を覗はんとするに既に六日午後六時約三十名邑の附近に徘徊するに至れるより郵遞取扱所員は九日錦山に引揚げたり

▲洪州（京畿）　は暴徒の巢窟ともいふべき所なるが此の地の人情は溫良なり然れども兩班に至つては頑固にして冷薄なり地方は我憲兵の生命財產を保護するものなることを解し居れるが如しと

●草賊冷井浦を侵す　去る九日草賊二十八名冷井浦に侵入し來りたる旨江華島の郡主より報告せしを以て我憲兵急行せしが草賊既に退散して目下異狀なしといふ

平壤方面の秩序恢復

平壤向田警視よりの報に曰く十一月八日德川方面に出張したるに平穩なるを以て郡守及避難民を招集し皆堵に安んじ其業務に服すべきことを說諭し置たり郵便局及學校も不日開始の筈にて秩序凡て恢復せり

出品の公評

京城博覽會の審査公評は左の如し

●人參は形質の優劣香の秀共に見るべきもののありと雖一般に外皮に褐斑ありて色澤純一ならず、●煙草は乾燥概ね粗漏にして光澤を欠き香味に乏し、●繭は色澤佳良繰糸容易切斷少なしと雖殺蛹期を失したるもの多し、●生糸は束裝絡交共に不整色澤良しからざるものあり中に一二良品を認む、●茶は水色香味佳なるものあり

●水產出品中主なるものは罐詰及鹽封品にして品質の優良なるものあり鰹節々鑵詰の如きは殆んど優劣なく就中韓國產鯖節は將來有望なるを信ず、●林業出品は點數極めて僅少なりしと雖も概して良好なり特に山林に關する系統的出品は韓國山野の救治改良に資する所甚大なり、●採鑛冶金出品中礦物岩石標本頗る異彩を放てり●荒銅型銅コークス及其副產物等亦參考となすに至る、●窯業品は出品點數最多く遠隔の地より輸送せられ永く時日を經過せしに拘はらず品質不良のもの少なく中には主產地の出品を凌がんとするものあり而して韓國に於ける釀造家の出品も亦相當の品質を有すれば前途大に有望なるを證するに足る、●陶磁器玻璃琺瑯煉瓦セメント人造石瓦及坩堝の出品は皆有名なる當業者にして製品多くは優良なり近來著しき進步をなせるを認む、●化學製品の主なるものは化粧品製藥原料及蠟燭等にして品質包裝等概ね佳良なり、●菓子類は多く日本人の出品に係り長日子を經過して尙變味せざりしは其製法の宜しきを得たるに由る中には果實を應用したるものあり徒に容器外觀の美を飾り却て包裝不完全に陷らざる樣注意すべし、●塗物類は實用品として一般の嗜好に適せりと雖も風俗氣候等を精査し製作の研究を怠るべからず、●紙類は品質概ね佳良なり韓國出品中原料の精撰及漂白の完全なるものあり●毛皮は出品數甚少數にして評すべきものなしと雖も柔皮法に付き改良の餘地あるを認む、●綿糸及綿布は品位齊一にして一般に佳良なり之れ蓋し機械的工業發達の結果にして著大の進步なりと云ふべし、●絹織物及交織物中甲斐絹紋甲斐絹紋羽二重絹綿交織絞縮子等は將來大に發展の望あり、●麻織物に於ても精良のもの尠なからず殊に韓國人出品中に出色のものあり●染物には友仙更紗絞染地及モスリン等時好に適せる出品多し、●刺繡は技工の大に賞すべきものあり、●組紐物は出品甚だ少數なりしも實用的にして需用大なり、●金屬製品は花瓶置物等の美術工藝品より手工器具日用具及農具等に亘り優秀の精巧と認むべきもの少なからず大體に於て製作意匠佳良なるもの多く一般に價格低廉にして用途に留意苦心の跡見るべきもの少なからず、●文房具製作意匠品質等特に推賞すべきものなしと雖由來本品は日常の使用品にして販路廣きは言を俟たず茲に着眼し殊て多數の出品をなしたるは賞すべし、●裝身具は履物足袋莫大小製品卸眼鏡帽子親衣貴金屬製品等にして製作概ね佳良價格高きに失せざるは嘉すべし就中莫大小製品眼鏡帽子の如きは進步著しく販路日に擴張し前途頗る有望なるを以て製作上一段の改良を怠らざるを要す、●家具は種類甚少なきも莞席の如きは製作意匠等佳なるものゝ多く向後一層注意研究を加ふるに於ては彼我貿易上主要の商品たるに至るべし、●携帶具には特に見るべきもの無し然れども實用に適するもの多し洋傘の如きは韓國人の嗜好に適するなるが出品少數なりしは甚だ遺憾とする所なり、●室內裝飾品は僅に屏風書棚類面等なれども頗る精巧なるものあり、●遊戲具は運動具及一二の玩具に止まり只運動具に於て製作の進步著しきものあるを見る、●繪畫造花寫眞印刷物は出品僅少なりと雖も優良のものあるを認む之を要するに將來益々進んで彼我の嗜好民情を察し生產上一層の研究を怠らざるに於ては廣く一般の需用を喚起し之を大にして日韓兩國貿易の利益を增進し之を小にしては各自の發展上多大の効果を奏すべきは余の信じて疑はざる所なり

明治四十年十一月十日

審査長 正六位勳五等 工學博士 平賀義美

●輸出運賃値下されん　大阪商船、郵船、尼ケ崎各汽船會社が合議の上仁川より阪神へ輸出の米穀運賃を四十五圓に値上けしたるに對し穀物協會にては總會の結果四十二圓に値下すべく奥田田中の兩氏を委員として交涉を開始したるが多分圓滿なる解決を見るに至るべし

●支那仕切書の考案　曩に在韓商業會議所聯合會に於て各居留地の支拂期日一定の件に關し議決する所あり依つて仁川商業會議所は各商業家に宛て翌月五日迄に一般の支拂を了すべき旨の通牒を發したるが各商人は弊習の久しき今遽かに五日拂に改むる事難く容易に其實行を見るを得ざるを以て會議所は種々其實行方法を講究中なるが今同所員の考案に依れば各商人の仕切書に左の如き捺印をなす事とし其印を會議所に於て注文し之れを各戸に分配する事とせば其實行上多少の効果を見るを得べしと

本仕切書の金額は五日迄に御支拂相成度候但し十二月は三十一日迄御仕拂の事

水原方面の賊

暴徒の首魁住玉汝は近頃廣州郡實村面熟岐洞に一戸を借受け家族と共に潜伏せるを探知し巡査部長以下巡査巡檢並に一進會員を合せ十名去九日夜陰に乘じ潜行し十四日未明其居所を衝き住玉汝並に部下賊將申鉉直を逮捕し昨十一日當地に護送して訊問せるに曩に竹山郡白山に於て酒本警部の一隊を攻擊し後人江巡査を殺害したると廣州に於て一進會員四名を殺害したると利川に於て山田騎兵隊の通過するを攻擊したると等遂一自白し其罪狀明白なるを以て即日守備隊に引渡し直に銃殺せられたり副將金致之亦同居し逮捕の際抵抗したるを以て銃殺す而して現場に於て日本刀一振金七十四圓を掠奪せられたる入江にして當署三澤巡査の所有なること判明したるを以て本人へ還附せり

●大韓協會趣旨書　金允植等等が大韓協會なるものを設立せしことは既報の如くなるが發起人は權東鎭、尹孝定、張志淵、鄭雲復氏等にて其趣旨書を本社に寄せられたれば左に記載することゝせり

嗚呼我韓國は東亞の一隅に國して世運と伴進する能ざること茲に數百年、政治案廢し教育弛退し產業衰乏して竟に自立の力を失ひ友邦の援を引くに至れり言此に及べは俯仰愧作に堪へず然るに今坐して自滅を俟んと欲せは則ち已む苟も或は自立の志あらは豈に友邦の贊勢に一任し互相推引の道を思はず隳然退伏して文明幸福の自ら至るを待つ可けんや、蓋し國家は是れ個人の團体にして個人は是れ國家の分子なり、故に人進めは國進む、人退けば國退く兩ながら相離れざるは天下の定理なり、西哲言はずや英雄は能く時勢を造ると古より英雄豪傑の士は國家の艱危及業の日に當りて時勢の困難を以て自ら沮せず必ず氣魄を振ひ局面に肝衡し百折不回の概あり而して後始めて能く時勢を挽回し其國を興復す再譴敢て英雄を以て自ら任せずと雖とも切に互相推引の功を望むや久矣、茲に一團を組織し之を大韓協會と名く其趣旨は要するに政治、教育、產業を講究し社會の智識を發達し新進の德性を陶冶し全國の富力を增進し之を以て我與個國民的資格を養成するにあるのみ此誠に今日の急務なり、試みに思へ古今天下の智德富の三者が時勢と伴進せずして能く其國を興起せしもの未だ之れあらざるなり盍かに觀るに我人が此三者に於て能く彼文明國人と對照して優色あるものゝ果して幾何かある此豈に反省自勵するの秋にあらずや、頃年五條の約に輿情激昂し最近七條の約成るや擧國騷亂して蔓延日に甚しく底靖期なし乃ち國の思想を以て反て國を斫喪するの禍ろ堪へざるなり夫れ國家の悲運は激昂の能く救ふ所にあらず一人民の不幸は騷亂の能く致す所にあらず一に實力の如何にあり、實力の如何は義の所謂政治、教育、產業の講究發達是れのみ本會が直に此根本に向て全力を灌注する所以なり、凡そ我國家の責任を負擔するものは恐らく異議なくして樂んで之が爲め協力相助すべきなり更に願ふ有志愛國の士は宗教の異同と階職の高下に論なく但だ我國土に生れ我國語を同ふし我歷史を同ふする者は庶幾くは翼贊同情し共に大業を濟せ

講究綱領

一 教育の普及　二 產業の開發
三 生命財產の保護　四 行政制度の改善
五 官民弊習の矯正　六 勤勉貯蓄の實行
七 權利義務責任服從の鼓吹

●大韓協會の認可申請　同會發起人等は統監府及軍司令部に向て設立認可の申請をなしたる由なり

●宮殿伺候者　一昨日の慶運宮伺候者は計二百三十一人にして其の重なるもの如左

總理大臣李完用、宮內府大臣李允用、警務官金錫煥、侍從院侍從朴齊斌、承寧府侍從洪運杓、承候官尹德榮、同金黃鎭、侍從院侍從嚴柱東、同李喬永、同金永[illegible]、同閔內[illegible]、同趙重國、同李永培、侍從武官府其昌、平事府侍從尹鴻求、警務官李邦協、子侯官尹澤榮、侍從院卿閔內[illegible]等にして橫轟宮へは李宮相、李總理を始め各侍從、武官、奉侍、閣丞、典醫等なり

●看守長任命　崔忠平氏は理事廳看守長任（七級）を命せらる

●水仁電線路改築の竣工　過日來功を急ぎつゝありし永登浦仁川間の電信線路改築工事は昨日を以て富平まで竣成するに至りたり

●木浦稅關支署長　仁川稅關官房長の伊[illegible]は今回木浦支署長に榮轉し本月未頃赴任すべく其後任は未定なりと尙木浦支署のホップ氏は當稅關詰となり統計係の事に當る筈

●仁川局電話交換狀況　十月中仁川市內に於ける電話交換狀況左の如し但し呼數接續數の合計は十日十一日の兩日に於てせるものなり

市內交換機數九臺、自働電話機數四臺、加入數は六一六人、有料加入者六〇六人、無料加入者一〇人、加入者電話機數六三一個、加入者總呼數六一〇二度加入者復接續數五四〇一度加入者一人平均呼數九、九

▲治外法權▼

新協約締結の功勞により吾統監は侯より公に陞みて齋御主人の毛利大膳殿と同格になられた是から余輩は故太閤の例もあれば公に對する敬稱を殿下としようと思ふ併し公も由來謙遜讓讓の德に富んだ方であるから或は此敬稱をお許しにならぬかも知れぬ▲夫はざうでも良いとして公に向て茲に一つの御相談がある夫は外でもないが露國同盟國の例に倣ふて在韓移住民中殖民地經營に關し特殊の功勢のありたる者へ盡級位賞なりとも授けられたいことである▲英國臣民にしてアフリカにある者印度にある者加奈陀にある者南洋にある者等の中に勳爵士となつた者の多いのは公も御存知の事であろうと思ふ英國政府が移住民を重ずることは此點だけでも明に解るのである▲憐れなる哉我住韓の同胞である若しも彼等が英國臣民であつたならば已に已に彼等の中にも五人や十人の勳爵士が出來たのである▲世人は伊藤公が僅か二年足らずの間にタッタ一人で新協約を作つた樣に信じて居るかも知れぬが夫は大なる誤である公の外に軍隊あり、軍隊の外に移住民あり以て今日を致したのである▲國家は何事を爲すにも宜敷公平ならざる可ず已に閣下を公爵に陞め目賀田氏及び元の公使林氏を男爵となし品に依ては移住民をも男爵に仕立てましき吾國家は移住民にも相當の授賞を爲して良からうと思ふ▲民團長拜謁拒絕の事は已に過去の事であるから敢て咎はせぬが法權子の此提言は是非共御採用を願たいのである▲本來ならば恩惠主義の統監公にはコンナ事位は已に疾に爲附になるべき筈である而るに今日まで其事のないのは或は君側の姦とやらが公の聰明を蔽ふて居るのかも知れぬ公たるもの虛心坦懷此提言を納れて宜敷移住民授賞に盡力すべきである

行する韓國皇太子并に伊藤公も親しく出席し伊藤公及び米國總領事チーサンモンス氏の

會談する爲に設立せしものにして[illegible]何れの宗教と何れの[illegible]問はず入會することを得、但し政府的の行動は絕對に之を排斥するものとす本會は世人の知る如く基督教信者

[illegible]り尚且會員たる青年には各其必要に應じて現下必須の教育を授け其品性を涵養し以て他日有爲の士たらしむるにあれば

今我京城に於ける本會の委員は[illegible]太米及韓人に依りて組織せられ會長は[illegible]人副會長及書記は韓人を以てし會計監督

會長は此建築物設備の補助として二万圓を寄附し并びに前顧問目賀田男爵は既往二ケ年間に於て一ヶ年一万圓宛本會の數

の上棟式の祝日を期とし參會の諸君本會に徵表のある處を諒とせられ應分の御寄附あらんとを伏望の至りに堪へず

雜報

●郵便所の事務開始 曩きに暴徒蜂起のため一時鎭南浦に引き揚げたる枕禾郵便取扱所は其後形勢靜穩に歸したるを以つて去る八日鎭南浦出發九日より再び事務を開始したり

●仁川守備隊引揚終了 仁川守備隊は一昨日をみて引揚げを了したる結果野上少尉以下六名の留守兵を殘すのみなり

●民團吏員の同行 仁川小學校生徒が開城及平壤に修學旅行をなせる事は昨紙記載の如くなるが民役所よりは岡本書記を開城に須藤書記を平壤に同行せしめたり

●美以教會の特別傳道會 理事廳橫丁なる旭町二丁目の同教會に於て豫報の如く今夕七時半よりも大傳道會を開く筈にて出席教師等へ何れも昨夜入京せり因みに今夕の講演者はハリス老博士、中山忠恕、釘宮辰生の三氏なりと云ふ

孤島在住日本婦人の書簡

蘭領スマトラの一孤島にある日本婦人が我赤十字社に對し同國官憲の無情を訴へ其救護を乞ふたるも同社にては別に方法なきを以て在同地の領事館に其保護法を願ひ出づべき旨回答したる由其書簡によれば蘭政府が未開人に對する政策のある所も窺ひ知らるれば此に掲ることゝせり

前文御免被下度候甚だ恐入候千人の佛を刻むより一人の人間を助けるとの譬もありますから何卒私を助け下さいませ此節は此方の國は大に騷いで居ます先日アジンの頭を捉へてタパビヤと云ふ所に遣り監獄に入れます故に此節は南京の支那人も皆逃げて居る者もありません私も逃げる積りであります產物商賣の爲めに土民に三千磅(我三萬圓)を貸し付けてありますす故歸るには金なし此方の役員に願ひますれば月拂にて遣ると言ひます、そすれば三萬圓の金を月拂一ヶ月拾圓位ですさ私は死ぬる迄も歸ることは出來ませんは故何卒上樣に工面が御座いますれば御惠み下されませ又與々も御助け下されませ先は御願まで

上樣 武藤いしより

此方の士人が日本の御方に早くスマトラを攻めに來て下されと賴みに來ましたから私は待らなさい私は尋ねて見るからと云ふて歸しましたが今に來ません此士人は大に困りますのは其里で兵士が一人殺さるれば五千圓の罰金です又先日は此のスマトラにて營所の燒けたのを私が居りまする里より十万圓の罰金ですから土人は大に困り居ります(原文の儘)

紅筆日誌 見返り柳

いづれ浮川竹に身を沈むる賤の女の、玉章の道なぞ知らん筈もなく、セメテ馴染のみ馴染まる殿御の許に覺束なき水莖の跡を走らす位が關の山の仕業、分けて妾の如き不束なる身のいかで文學なぞをわしらうよしもなければ百も御承知とあらば致し方なきまゝに左に恥づかしながら昨日よりの日記を掲載いたすことゝすべければ

◆十三日(半晴半曇) 今日も今日とて姐さんの御機嫌わしく、ヤレ那々したとては小言、斯うしたとては慳貪聲、思へば新參の身のシミジミと憂き悲しさの胸一杯になりて、イッソ斯うしてとの無分別の心の起らざるはあらねど、海山遠き故鄕に、妾の歸りを待ち玉ふ父上や母上や又はいとしいはらからの、もしも斯くと聞き玉はんそのさきは、さぞや其悲嘆の程はいかばかりかはと、ツヒ夫れ許ッかりにひかされて、我から忍ぶ胸の苦しさ、さは云へ是れも此身の因果、浮世の習ひと、氣を取り直し、淚を拭ひ、又斯うして居つて姐さんにでも見付つたら小言の種と、鏡臺に立て掛けし妹の寫眞に頰擦りして、わが部屋を出づる途端に、何時もの意地惡るき仲居の、疳走しつた聲にて「八重垣さんお客さんですよ」と呼びければ、草履引ッ掛けイソ〳〵と店に出て見れば、まだ顏をも知らぬ初會の客、ジロリと橫目で妾を見ながらズット座敷に通りし隙に、衣物脫ぎ替へ、髮搔き付け、ハテ何のやうなお客かしら、それにしても自分への名指しとは不思議な譯と、胸に思を廻らしつゝ、障子靜かに押し開けば、客といふは長火鉢のあなたに打寬ろぎ、シガーとやら言ふ莨を服かしながら「誠に天女天降り、歌舞の菩薩か辨天か」との嬲りかた、顏は恰も紅葉のそれのよう、豫て仕附けの仲居の眼くばり、マダ廓馴れぬ言葉もて、『旦那ようれ出でまし』せといふも微かに口の中、勸めする身の斯くありてはと、われとわが心を勵ましつゝも、マダ馴れやらぬ新參の銚子取る手も覺束なく、愛想の言葉の數々も忘れ勝ちなるイヂラシサ、仲居は傍より言葉を添へ、『マダ旦那新參ですから、羞恥むのですよ、ドウか可愛がッてネ』と言ふも我が身を引立て入る心よりなるべし、サテ客といふは年の頃廿八九にして美男といふ程にはあらねど、何となく品格の身に具はり氣立は極く面白さうな活潑な方にて、一見大家の商人とも思はるゝ人柄、醉の廻るにつれ、シツコク妾の身許を聞き玉ふも、いづれは去る由ありての事ならめ、折柄夜もよう〳〵に更け渡りて按摩の笛も憐れ氣に、しめやかなる新內の流しも、何となく今は吾が身の無情を語るかのやうに。

●玉の輿は厭だ 右大將源賴朝が平氏の一門を西海の端に沈め自ら天下の總追捕使と成り幕府を鎌倉に開き源家の勢威を天下に示さんと宗徒の面々を集めて士の据野に卷狩を催せしとき多年骨に刻みたる親の仇たる祐經を陣中に討取りたる曾我十郎五郎の成名にあやかりて十郎五郎と名乘り、掬翠樓に三筋の糸で世を渡る二人の藝妓ありしも二人とも根引されて玉の輿に乘り居れるが姉の十郎のことは既に記せし所なれば讀む人疾に御存知なるべしさて五郎といふは筑前博多の產れとかにて或る年博多の券番にて浮氣勤めする中同地に流れ來た壯俳と出來合ひ如何なる腐れ緣かは知られねど切つても切れぬ仲となり此壯俳に貢いだ金ばかりでも莫大なものであつたこれが爲め五郎の首は野猪の首見た樣に後ろにも前にも廻はらぬと云ふ始末となつたので何樓へか鞍替へして此始末を付けねばならぬと壯俳と相談中掬翠より買出に來て居ることを聞き樓主と相談の上五百圓に纏り壯俳とあかぬ別れを惜み玄海の浪に一夜を明かし博多の空を見返り翌日釜山に着し短亭長驛を迎へ送りて掬翠樓に乘り込んだのは今を距る四年前なりし當時は日露開戰中にて祝勝會連續に行はれ各料理店は飲めや歌への大騷ぎにて胡砂吹く滿州の野に暴露と戰ひ嚴寒と戰ひつゝある兵士の苦も察せず顏なる泥峴の紳士の酒席に侍ることゝなりしより此に五郎の嬌名は泥峴の天地に響き渡れり此時某將軍は陣中の徒然を慰むる爲め掬翠樓に於て長夜の宴を張られ酒池肉林の豪遊に五郎を召されたるに將軍の御召に叶ひ遂に枕の塵を拂はせられたるが緣となり每夜將軍の邸に伺候し居りしが或る時邸宅より歸りの處を新聞社の兎耳に見付けられて世間に吹聽せしが將軍も大層氣にせられ一時は親の病氣とかにて國に歸へさられて餘熖のさめた時分又々掬翠樓に現はれ出で此時は日韓協約締結されんとするとき來韓されたる老公の旅館に三郎と共に御給仕に召され身にあまる光榮を得たることあり之れが爲め老公歸朝の後多大のかづけものさへ賜はり朋輩のものどもは之を見て一人として羨まぬはなかりしとは泥峴に住む有象無象共も其果報なるに一同眼を欹てたりと(未完)

●異の土左衞門 世間水死者を呼んで土左衞門といふは誤りにて實に高陽郡中面死洞三井里の土取場に執務せし金鳳國(二十二)は去る九日土石崩壞し壓死を遂げたとのことなるがこれぞ異の土左衞門なるべし

●本町座本日の藝題 たくめ兄錄三井上○車夫寅公新田○久世れ順、淺たかん西本○弟子長太郎大島○新造ふまつ杵○玉川たしげ橫山○花魁丁山後に淸妻たくめ吉岡○馬丁平助谷○若者喜助中澤○玉川重兵衞保岡○久世操、近家娘たに梅小泉○陸軍少佐篠山六平太靑木○貿易商人篠田北山○久世友房三木○半玉小藤二國○久世すみ子後に、篠山妻すみ子三井○幇間櫻孝淸水○幇間梅孝森○藝師玉川淸北村

電話開通貳八番

一手運送運搬請負

今般電話開通致候に就ては親切叮嚀を旨として御便宜を計り精々勉強仕候間舊に倍し御用命の程伏て願上候

京城南大門外一丁目 **姬野荷馬車部**

海軍御用達
大阪商船株式會社仁川支店
專屬荷客仲次店
日本海上運送保險株式會社
仁川代理店

(さ) 慶田組艀出部

仁川本町壹丁目 電話四十二番 電信符號ケイタ又ハケ

大阪商船株式會社仁川支店
專屬荷客取扱
通關並に鐵道運送
帆船運送艀舟業

(さ) 慶田組荷捌部

仁川海岸通 電話七十二番 電信符號ケイタ又ハケ

(さ) 慶田組濱出張所

電話二百七十八番

(さ) 慶田組京城出張所

京城南大門外二丁目 電話九百四十九番

本店 仁川理事廳通（電話三三二番）

原金旅館

支店 京城南山町（電話一〇七番）

新聞賣捌

京城日報 一ヶ月四十錢
大阪朝日新聞 一ヶ月四十五錢
東京朝日新聞 一ヶ月三十七錢
萬朝報 一ヶ月三十三錢
時事新報 一ヶ月五十錢
大阪時事新報 一ヶ月三十五錢

右各新聞迅速確實に配達仕候尙今回申込所を設置仕候間御便宜堂及申込所に御申込被下度候

京城大漢門前 **盛文堂** 電話四二六番

申込所
大和町一丁目 田中商店
本町二丁目 江見商店
南大門外 目良商店

南山町二丁目（植村病院前）

貸席待合 **まつ乃花**

客室は淸潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

本店 內地支店及出張所 韓國出張所及淸國出張所

東京市日本橋區兜町、四日市、大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町、仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城、安東縣

株式會社 **第一銀行京城支店**

電話番號 營業部 一一一番 當直用 同 一一一番 營業部 三三一番 國庫部 六一一番 用度係 六一二番 分拆所 六一三番

總支配人 市原盛宏
副支配人 三島太郎
國庫支配人 ……
副支配人 竹山純平
調查部長 ……
副支配人 ……
營業部長 木村雄次

●資本金五百萬圓

橫濱火災海上運送信用保險株式會社

●諸積立金百四十餘萬圓

大阪市東區高麗橋 **大阪支店**

仁川代理店 **秋田商會**（電話一七三、一一六）

各煉瓦工場及精米所其他諸工場
ストーブ及風呂場並ニ調理用炭

筑豊唐津 **石炭販賣**

日本產 **無煙炭** 近日中入荷

淺野セメント卸小賣

支那人製及韓國製 日本型 **煉瓦大販賣**

京城長谷川町（小公洞）

石炭商岡田商店

店主 岡田伊太郎

販賣所 龍山埠頭 **岡田貯炭部**

綿類卸

吳服新蒲團

京城明治町二丁目 **唐川商店**

銀行一般業務精々御便利に取扱申候

資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

京城南大門通（電話四二〇）

株式會社 **十八銀行京城支店**

本店 長崎市築町
支店出張所 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、馬山、群山、羅州、韓國、大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐 日本

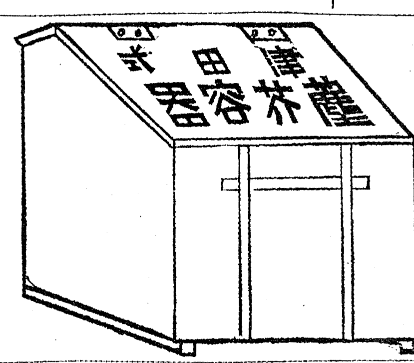
其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金（一口壹錢以上何程にても御預り申候 利息日步壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

急告

京城理事廳令達第四號に基きたる塵芥容器は京城民團役所の檢定を經て多數製作罷在左記大廉價にて販賣可仕候間此際陸續御用命伏て奉希候



價格寸法

一號 金四圓八拾錢 横二尺二寸 高二尺八寸 巾三尺五寸
二號 金三圓八十錢 横一尺八寸 高二尺五寸 巾三尺
三號 金二圓八十錢 横一尺五寸 高二尺四寸 巾二尺五寸
四號 金一圓八十錢 横一尺一寸 高一尺九寸 巾二尺

發賣元 京城南大門外（鐵道管理局前） **東京伊藤出張所**

塵芥容器 製作工場 京城西小門內

一 石炭
一 セメント
一 パインアップル

右新荷着仕候間多少に不拘御用命願上候

三井物產合名會社
京城出張所（電話二十六番）
仁川出張所（電話六十三番）

熊平製造金庫

東京 **竹內製金庫**

大阪二重瓶並ニ回轉式 **消火器**

韓國販賣部 京城本町一丁目 **熊平支店** 電話六二四番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目
支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 **第五十八銀行京城支店**（電話五八番）

爲替取組先

畿內	二十七ヶ所	
東海道	十三ヶ所	
山陽道	十五ヶ所	
南海道	十三ヶ所	
北海道	五ヶ所	
臺灣	二ヶ所	
東海道	二十八ヶ所	
北陸道	十ヶ所	
山陰道	十三ヶ所	
西海道	三十ヶ所	
韓國	九ヶ所	
淸國	一ヶ所	

香港上海銀行
露淸銀行 代理店

獨逸 ホームリンガ商會仁川支店

（電話三八番）

販賣品項目

● 洋反物類、毛織物類、シャツ
● 埃及煙草、洋酒類、ビスケット、罐詰類
● 諸機械類、ストーブ、裁縫機、電氣機械
● レール、機關車、客車、鐵道用諸機械類
● 洋鐵鋼、亞鉛引浪平板、洋釘、垣用線電線、ワイヤロップ
● ペンキ油類、硝子板、セメント、米利堅松、月印曹達、獅子印洋蠟、麥粉

宿泊 宴會 玉突

日本人俱樂部

京城南山町三丁目（電話一二三番）

諸官衙御用品調達

營業科目

紙類書籍
印刷附屬品
印刷インキ
防腐デシン
穀物食鹽
織物染料
各學校用品調達

幷に

委托販賣

東京 合資會社 アライアンス商會代理店
橫濱 百七十六番 ヒユームエンドライフ商會代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
京城 金港堂發行書籍特約店
東京 臺鹽合資會社食鹽特約店
釜山

藤田合名會社

本社 京城明治町二丁目 電話二二〇番
支店 仁川濱町二丁目 電話一三五番
出張所 東京京橋區南鍋町一丁目 電話新橋三九六二番

協同組瀛船元扱

仁川海岸通 電話五二番

協同組回漕店

京城南大門外通 電話七〇三番

協同組支店

電話一四三番

仁川出帆廣告

● 門司神戶大阪行 甲斐丸 十一月 日午後四時出
● 門司行 九州丸 十一月廿三日午後四時出
● 鎭南浦行 乾坤丸 十一月 日午後四時出
● 仁川濟州山線（濟州富里浦鰐串浦行） 三省丸 陰曆每月一、六の日朝出
● 仁川海美線大湖芝行 三省丸 陰曆每月四、九の日朝出
● 仁川港內曳船の依賴に應ず

右航路以外何れの地方にも確實なる取引店有之候に付海陸連絡運送幷に當地稅關輸出入手續共懇切御便利に取扱仕候

大阪商船株式會社仁川出帆廣告

仁川支店 電話一二三番
切符發賣所
仁川稅關波止場出張所 電話二二〇番
京城本町通り角發賣所 電話六五番
荷客扱店 慶田組 電話四二番

● 關門、神戶、大阪行 安平丸 十一月 日前十時出
● 關門、宇品、神戶、大阪行 京城丸 十一月 日前十時出 咸興丸 十一月十八日前十時出
● 群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戶、大阪行 群山丸 十一月廿二日後五時出 本浦丸 十一月十五日後五時出
● 群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戶、大阪行 千賀丸 十一月十九日後五時出 筑後川丸 十一月廿六日後五時出
● 木浦、釜山、巖原、鄕之浦、長崎行 木曾川丸 十一月廿五日後二時出
● 長崎行 信濃川丸 十一月十七日後二時出
● 鎭南浦、大連行 木曾川丸 十一月廿日前十時出 信濃川丸 十一月 日前十時出
● 鎭南浦、龍岩浦、安東縣行 咸興丸 十一月 日後一時出

日本郵船株式會社仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 **郡回漕店** 電話三九番

京城南大門通 **巴商會** 電話三〇六番

● 群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 浦汐丸 十一月廿四日後一時出 第一オハヨ號 十一月五日後三時出
● 大連、大沽行 酒田丸 十一月十九日前九時出 山東丸 十一月二十八日後一時出 高砂丸
● 鎭南浦行 第一オハヨ號 十一月 日後三時出
● 元山、城津、浦鹽行 弘濟丸 十一月廿日
● 鎭南浦行 ……十一月廿七日後三時出

注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

